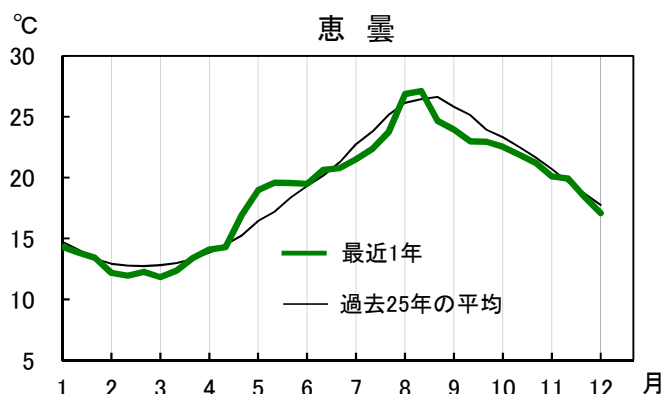
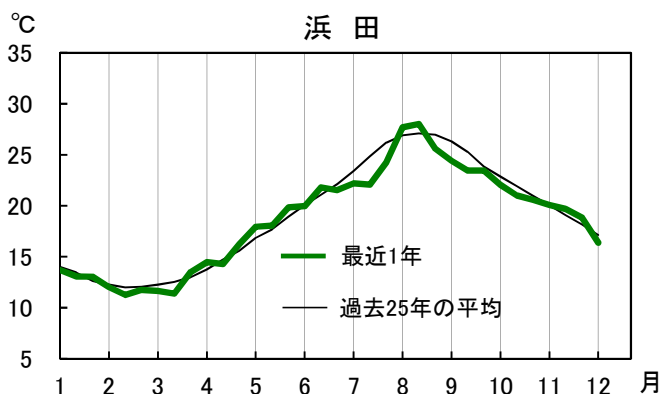




《11～12月の海況》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.5℃	+0.5℃	やや高め
恵曇	19.6℃	-0.1℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では11月は月上旬が「平年並み」でしたが、中・下旬は「やや高め」でした。恵曇地区では11月は月上旬が「やや低め」でしたが、中・下旬は「平年並み」でした。両地区とも12月に入り月上旬時点で「やや低め」で経過しています。



《11月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類、サワラ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は10.5トンで平年を下回りました。全漁獲量の内、主体であるサワラ類は33トンで平年の1.3倍だったものの、マアジは70トン、サバ類は55トンでそれぞれ平年の2～4割でした。西郷、浦郷地区ではウルメイワシ、ブリ、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は、西郷は51.9トン、浦郷は42.8トンでそれぞれ平年を下回りました。全漁獲量の内、ブリは西郷では1,985トンで平年の2.4倍、浦郷では335トンで平年並みでしたが、ウルメイワシは西郷、マアジは浦郷で平年を下回りました。また、浦郷は例年漁獲されるサバ類が全く漁獲されませんでした。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の99%）の漁況で、スルメイカとアオリイカがわずかに混じり、1隻1航海当りの漁獲量は98kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は43kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、アンコウ、キダイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は14.3トンでほぼ前年並で平年の1.1倍の水揚げとなりました。ムシガレイはほぼ平年並でしたが、アンコウは平年の1.1倍、キダイは平年の1.4倍の水揚げでした。その他、アナゴ類は平年の1.2倍、ソウハチは平年の5割、アカムツは平年の2.6倍の水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

両地区共にヤリイカが主体で、その他の魚種として和江地区ではマダラ・アナゴ類・アンコウ、久手地区ではアナゴ類・キダイ・ソウハチが多く漁獲されました。総漁獲量は和江地区311トン、久手地区200トンで、両地区ともほぼ平年並でした。1隻1航海当りの漁獲量は和江地区は平年の9割、久手地区はほぼ平年並みでした。和江地区ではヤリイカが平年の4.6倍（漁獲量63トン）、アナゴ類が平年の1.8倍、キダイが平年の7割、ソウハチが平年の4割の水揚げでした。久手地区ではヤリイカが平年の6.4倍（漁獲量67トン）、マダラが平年の5割、アナゴ類が平年の1.7倍、アンコウは平年の8割、ソウハチは平年の5割の水揚げでした。

【定置網漁業】

石見地区ではサバ類、サワラ類主体の漁況で、1統当りではサワラ類、サバ類、ブリが平年並みだった他、マアジが平年の3割程度となり、全統の総漁獲量は88トンで平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、マアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではサワラ類、マアジが平年並みだったものの、ブリ、サバ類がそれぞれ平年の3割から5割程度となり、全統の総漁獲量は248トンで平年を下回りました。隠岐地区ではウルメイワシ、サバ類、マアジ主体の漁況で、1統当りではウルメイワシが平年の3.7倍、サバ類が1.6倍だったものの、ブリ、マアジを含む多くの魚種が平年並みか平年を下回り、全統の総漁獲量は37トンで平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、サワラ類、ブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は30kgで平年並みでした。石見地区でケンサキイカ、サワラ類、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年を下回りました。隠岐地区ではクロマグロ（ヨコワ）、ブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は21kgで平年を下回りました。

【平成 27 年 11 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類、サワラ類	189トン	25%	29%	10.5トン	48%	42%	▲
	西郷	ブリ、マアジ	4,152トン	64%	57%	51.9トン	67%	49%	▲
	浦郷	ウルメイワシ、マアジ	2,010トン	59%	61%	42.8トン	79%	61%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	24トン	164%	31%	98kg	194%	63%	▲
	西郷	ケンサキイカ	1トン	125%	10%	43kg	65%	16%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、アンコウ、キダイ	352トン	119%	108%	14.3トン	98%	107%	○
小型底曳網	久手	ヤリイカ、マダラ、アナゴ類、アンコウ	200トン	114%	104%	886kg	108%	101%	○
	和江	ヤリイカ、アナゴ類、キダイ、ソウハチ	311トン	102%	99%	816kg	92%	88%	▲
定置網 (大型)	浜田	サバ類、カタクチイワシ	35トン	108%	133%	3.2トン	138%	250%	◎
	美保関	マアジ、サワラ類、ブリ	119トン	82%	83%	1.6トン	88%	86%	▲
	浦郷	ウルメイワシ、マアジ、ブリ	24トン	90%	137%	1.1トン	98%	151%	◎
釣り・縄	仁摩	ヒラマサ、ケンサキイカ、クロマグロ(ヨコワ)	11トン	228%	48%	22kg	113%	42%	▲
	大社	ブリ、ヒラマサ	10トン	76%	57%	26kg	96%	57%	▲
	西郷	クロマグロ(ヨコワ)、その他魚類(チカメキントキ主体)、カサゴ・メバル類	4トン	55%	30%	15kg	75%	53%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

【ケンサキイカ情報】

発行日:平成27年12月24日

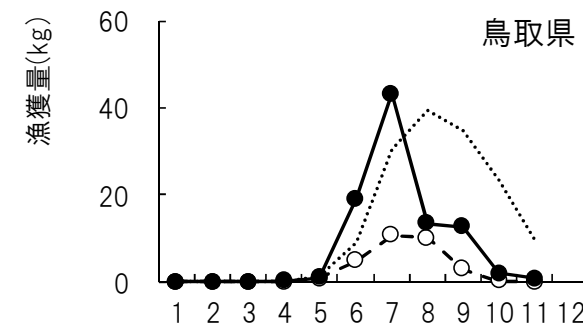
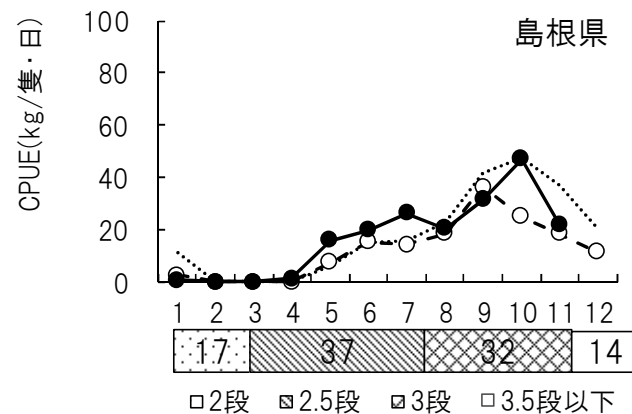
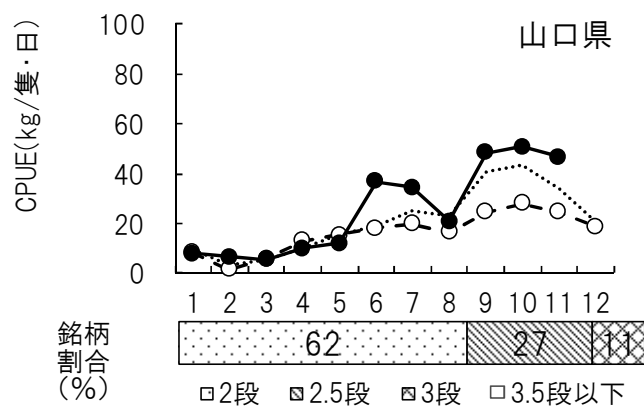
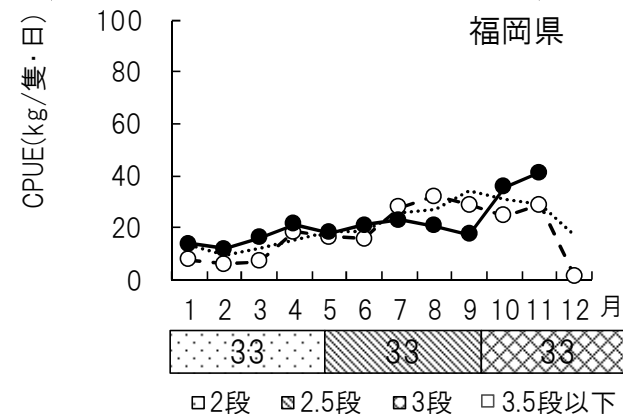
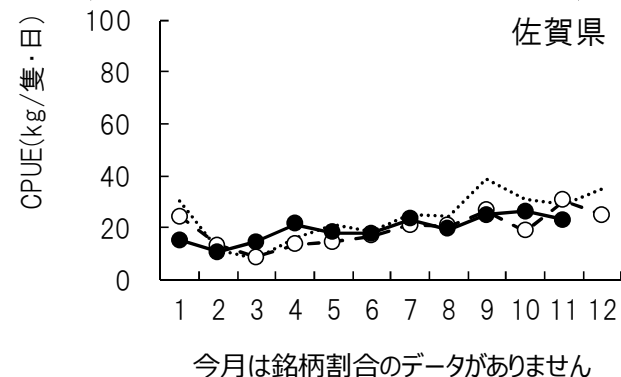
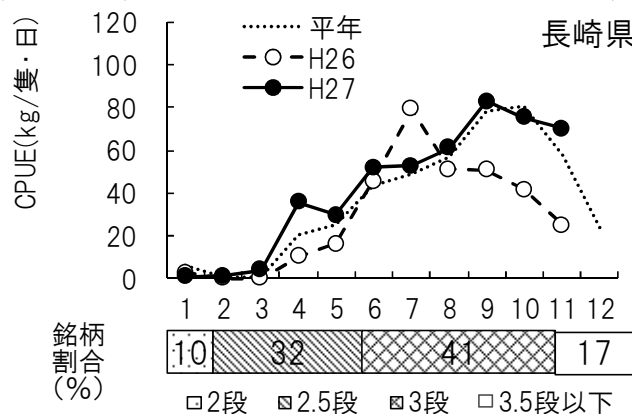
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I:11月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県～鳥取県では福岡県(平年並み)を除き平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁港の水揚げ量は、前年を大きく上回り、平年を下回りました(前年比223%、平年比73%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年、平年を下回りました(前年比60%、平年比58%)。	福岡県	代表港の漁獲量は、前年、平年ともに平年並みとなりました(前年比108%、平年比106%)。
山口県	代表2地区の漁獲量は、前年を大きく上回り、平年をやや下回りました(前年比233%、平年比78%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は41トンでした(前年比195%、平年比29%)。	鳥取県	11月までの水揚げ量は前年を上回り、平年を下回りました(前年比305%、平年比63%)。



※平年は過去5年(H22～H26)の平均値

Ⅱ：12月上旬の底層水温

長崎県	長崎西沖の底層水温は17・20℃台を示し平年並みとなっています。	佐賀県	壱岐水道の底層水温は、18.4～19.4℃で平年並みからやや高め、対馬東海道の底層水温は16.1～19.5℃でやや低めからやや高めでした。	福岡県	沖合域の底層水温は18～19℃台で平年並みとなっています
山口県	底層水温は7～19℃台で、10℃以下の冷水出現域では甚だ低め、その他の海域は概ね並みからかなり低めでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～130mが12.2～19.1℃、それ以深が1.8～8.5℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は17℃前後で、先月と変わらない値となっています。

今月は底層水温分布図がありません